

関西詩人協会会報

第 76 号
2015.1.10

発行者 有馬 敲

関西詩人協会第21回総会 関西詩人協会設立20周年記念誌」出版記念

11月16日(日) 13時30分より
エルおおさか 5階視聴覚室



有馬 敲代表挨拶

大倉元委員の第1部司会進行で定刻に始められた。今年度逝去された会員に黙祷をささげ、開会のことばを横田事務局長が行い、次に有馬代表より挨拶があった。今年度はそれぞれの事業を20周年記念事業として取り組んだ。特に詩のイベントと『設立20周年記念誌』の2つが大きな目玉であった。20年の月日を思い、継続は力なりと改め

て思うなどと、述べられた。その後、議長選出となり、会場から立候補する者がいないので、あらかじめお願いしておいた北村真会員を議長とした。今回の総会は委任状57名、出席者63名で行われることが報告された。議事は、運営事業報告、会報発行報

告、会計決算報告、会計監査報告、インターネット、ホームページの報告、と今年度の報告がなされ、これらを議長が採決をとり、全て了承を得た。

続いて、次年度事業計画案、次年度予算案が提出された。また、規約改正案として、永年会員に、年会費二千元の負担をお願いする改正案が提出された。(永年会員の資格の規約は変わらない)会場からは、会計上の都合なのでこの案については異議なしとする意見と、永年会員になり会費免除を期待していたのに残念など、この案に対する批判もあった。新運営委員については、会報75号で報告の新運営委員の内、河井洋、岸本嘉名男両氏は、身体的理由により辞退されたので、嵯峨京子、松村信人両氏が新委員に加わり、提案があった。議長の裁決により、結局、次年度の項目については、規約改正案が圧倒的多数の賛成で可決承認されたほか、次年度の項目についてはすべて可決承認された。

議長は退任し、新入会員で出席されている西崎想、信定和美、登り山泰至、各会員が紹介された。新運営委員の紹介、また今年度で退く委員も壇上に上がり、記念品を授与された。

本号の主な記事

- ①面 第21回総会報告／記念誌出版記念会報告
- ②面 総会講演・吉田定一氏
- ③面 決算報告書・予算書／新体制
- ④面 新入会員紹介／会員発行の詩誌／ホームページからのお知らせ
- ⑤面 第2回バスツアー報告／運営委員会の模様
- ⑥面 会員活動／イベント／会員の異動／団体の会報と図書

第2部は予定時間を大幅に遅れて開始された。吉田定一会員の講演に入る。演題は「童謡(うた)の心・詩のこころ」。講演内容については別記事に紹介。



『関西詩人協会設立20周年記念誌』出版記念会に入り、『関西詩人協会の20年を振り返って』のお話を長年協会のために尽くされた、志賀英夫会員にしていた。協会の出版は大阪文化団体の会合の帰り、志賀氏と故水口洋治、故福中都市子、原圭治、水谷なり子、各氏が大阪文学館を作って欲しいという願いで、協会を設立しようということになった。設立の2年前に規約を作成して、各詩人たちに勧誘のお知らせを通知した。故水口氏は協会設立に大変なご努力をなされた。平成6年10月には設立の会をもつ運びとなった。会報の第1号には会員約300名、総会出席者80名とある。大阪文学館については、10年にわたる陳情の末、大阪市の硬い壁には立ち向かえず、陳情を断念する。協会設立の1年後、阪神・淡路大震災があり、会員の安否確認をした。また、被災会員は1年間の会費免除とした。

その後、震災特集のアンソロジーが出来、4版まで詩画工房で出版した。「暮らしの手帖」にこの中から、20名の会員の作品が掲載された。

その後朗読のプログラムとなり、井上良子、中西衛、西崎想、森清各会員が自作詩を朗読した。プログラムにある、佐相憲一、近藤摩耶、中尾彰秀各会員は時間の関係上、懇親会会場でしていただいた。懇親会の司会進行役は北原、中尾各委員、開会の言葉を薬師川虹一委員、今年度に詩集・詩書を発行した会員の紹介を、寺沢京子、藤谷恵一郎委員がされ、壇上で著者がそれぞれの本を紹介した。岸本嘉名男委員の乾杯の音頭に始まり、和やかな懇談の時をもった。最後、左子真由美委員の閉会の言葉で御開きとなった。(文責・神田さよ)

○関西詩人協会設立20周年記念誌訂正

亡くなられた方々2008年10月に島田陽子氏が亡くなられています。誠に申し訳ありません。ここに訂正させていただきます。

12頁、下段5行目最後の「良い蚊『会員名簿』は「よい『会員名簿』」の誤りですので、お詫びして訂正させていただきます。

竹林館

講演 吉田定一

童謡のこころ・詩のこころ



吉田定一氏

幼児期に「なぜ・どうして」と発する時期があるように、童謡作品にも「どうして」と「問い」、その「問い」に「答え」を添えた童謡がある。「ぼくのはなべちや／だれににた／だれにもにない／ママににた／うさが2ひきいえにいる」(有馬敲「ぼくのしるし」一連)と云うように…。こうした問答歌形式の童謡に、童謡詩人の代表作品が多々見られる。「赤い鳥小鳥」(白秋)「かなや」(八十)、「七つの子」(雨情)そして「ぞうさん」(みちを)等々、歌われている童謡が多い。

北原白秋

(次の一文は、雑誌『無限』対談・与田準一／吉田定一「詩としての童謡論」からの部分引用。詩に引き寄せて語るべきところが時間がなく…。)
吉田 この「お月夜」という童謡はどういう意味でも捉えられるし、解釈できますが、その意味ではいちばん気分的、象徴的な童謡かも知れません。(与田さんが云われるように、この童謡は自然観照の洗練から生まれたもの)ですが、何処か、幼児の孤独な心象風景を、眺め見るような。それでいてなにか静寂な夢を開示している。＼トン、トン、トンあけてください＼と記憶の底に沈んでいる幼児への訪問？その戸口で、暗部の問自答するように…。＼どなたです。／わたしや木の葉よ。トン、コトリと、木の葉(や風や月)が答える。自分の中に眠っている幼児への、もう一人の自分への訪問でもあるような。それが木の葉や風によって象徴されているともいえませんか。この問答体のもつこのスタイルは、大正童謡の生んだ思索のスタイルであると思うんです。そしてそのスタイルそのものが、童謡詩人の思索の揺籃であったと考えられるのです。

(与田 内面の幼児に向けての。)

吉田 大人の内部に眠っている子ども、その内面の無垢な幼児を呼び醒

ますのも、語りかけるのも、言葉です。それから、言葉による語り掛けの位相から、様式といえますか、フォルムや形式が生まれてくる。そうして自分に内在している幼児がそこで目覚めてくるわけですね。

吉田 また、幼児への回帰ということは、言葉を換えて言えば、人間の暗部への回帰でもあるわけですね。

(与田 体内的回帰?)

吉田 この幼児という暗部を通った向こうに、もう一つの明るい世界があるんじゃないかというように、言葉によるかつての幼児体験の蘇りは、現在の新たな経験としての夢を開示しているように思うんです。

子供であるのはぜいたくな哀しさなのに／そのなかにゐて知らないもの／雪をにぎってとけないものと思ひこんでゐた／いちどのかなしさを／いまこんなにもだいに おもふとき／わたしは＼ようねん＼をはじめて生きる(吉原幸子「1 喪失ではなく」部分)

吉田 また言葉のもつリズム、韻と韻の繰り返しによって作られる旋律、そういった詩の全体からくる響きをとばに背負うその位相に、歴史性といえますか、人間の最も原始的なものの中に沈む感覚が宿っていると思うんですね。戦後の童謡は、言葉の機能といえますか、響きが意味を内面から支えていることを忘れてしまったような気がします。

(詩人の斎藤志さんがこの対談を読まれて曰く)「この吉田発言は『現代詩』にも通ずるものとして、私は真

摯に受け止めた。童謡の根っこにあるのは人間の「声」である。現代詩は「幼児という暗部を通った向こう」即ちいのちの輝きと、感情を込めて発せられる人間の生きた「声」を忘れてしまったのではないだろうか。」と。(詩集『わたしの胸の夕空』解説より。)

総会の様子



会計報告 (削除)

総会出席者

有馬 敲・阿形蓉子・秋野光子・井上 庚・井上良子・猪谷美知子・市原礼子・岩井洋・大賀二郎・大倉 元・尾崎まこと・蔭山辰子・和比古・香山雅代・河井 洋・神田さよ・北村 真・岸本嘉名男・北原千代・熊井三郎・香咲 萌・近藤摩耶・齊藤明典・榎 次郎・嵯峨京子・左子真由美・佐古祐二・佐相憲一・志賀英夫・志田静枝・島 秀生・下前幸一・瀬野とし・田島廣子・田村照視・司 由衣・釣部与志・寺沢京子・寺西宏之・外村文象・中西 衛・すみくらまりこ・中尾彰秀・名古屋きよえ・永井ますみ西きくこ・西崎 想・信定和美・登り山泰至・橋爪さち子・原 圭治・福田ケイ・藤谷恵一郎・ますおかやよい・松村信人・三浦千賀子・南 久子・村野由樹・森 清葉師川虹一・やまもとれいこ・横田英子・吉田定一 (63名)

懇親会出席者

会員外総会出席者 (5名)

井上 庚・市原礼子・岩井 洋・大賀二郎・大倉 元・尾崎まこと・蔭山辰子・和比古神田さよ・岸本嘉名男・北原千代・熊井三郎・香咲 萌・近藤摩耶・榎 次郎・嵯峨京子・左子真由美・佐古祐二・佐相憲一・志賀英夫・下前幸一・すみくらまりこ・瀬野とし・田島廣子・田村照視・釣部与志

部与志・寺沢京子・寺西宏之・外村文象
中尾彰秀・名古屋きよえ・永井ますみ・西
きくこ・信定和美・橋爪さち子・原 圭治
福田ケイ・藤谷恵一郎・ますおかやよい
松村信人・三浦千賀子・森 清
(46名)

新体制が以下に決まりました。
ご協力をよろしく願います

代表	有馬 敲
事務局長	大倉 元
総務	名古屋きよえ
会計	岩井 洋
会報	永井ますみ
議事録	佐古祐二
入退会・名簿	吉田定一
	佐相憲一
	嵯峨京子
	奥村和子
	近藤摩耶
詩画展	外村文象
	中尾彰秀
	榎 次郎
イベント	田村照視
	釣部与志
	原 圭治
国際交流	村田辰夫
	薬師川虹一
ホームページ	すみくらまりこ
	松村信人
『言葉の花火』	薬師川虹一
	村田辰夫
	すみくらまりこ

新入会員の詩
蛇
松村信人

縁日の露天の並びにはよく見世物小屋が建った。怖いもの見たさに友達と連れ立って覗いたものだが、なかでも蛇女は忘れることのできない衝撃的なものだった。――親の因果が子に祟り、ああ恐ろしいや、恐ろしいや。しかしこれは運命なのです。呼び込みの親父の音が響き渡る。舞台では着物姿の小柄な娘が横たわっていて、裾をまくると膝から脛にかけて蛇の鱗状の紋様が目に飛び込んでくる。――娘の父親は朝から晩まで蛇を獲るのが生業、何千匹もの蛇を殺してきた報いが今となっては……。呼び込みの音が響く。

ある時雑木林の氷の張った溜池で遊んでいて、連れの何人かが傍らの大きな岩を動かそうとしていた。やつとこのことで傾いたその岩の下には、何十匹もの蛇が折り重なって冬眠していた。あまりの気味悪さに、私は吐き気を催し一目散に逃げ出していた。――石で頭を潰そう。背後では悪童どもの歓声があがっていた。あいつらの子孫にはきつと蛇女のような祟りがあるに違いない。そう思って走り続けた。

旧家の天井裏には蛇が棲みついていて。真夜中板張りの上を這い回り回る音。時には鼠を啜えているのか、断末魔の鳴き声と激しい物音が響くことがあった。そんなときは蒲団に潜り込んだまま息を潜めていた。蛇はそれでも家の護り神として崇められ、その姿を見ることはなかった。大きな白蛇であろうと噂されていた。

は読書に熱中するようになっていた。

詩を発表する場所は「別冊關學文藝」(年二回)、「イリプスII」(今年から年三回)が中心。あとは頼まれ原稿が年に一度程度。それで精一杯。掲載作品は「イリプスII(十一号)」「2013年5月」のもの。詩のスタイルにこだわる契機となった作品。

新入会員紹介

おしだとしこ

この度、関西詩人協会に入会させて頂いたばかりで感謝を申し上げます。



私は奄美の喜界島で生まれ、5歳まで父の任地台湾で過ごしました。戦況の悪化で喜界島に引き揚げて高校まで過ごし、大学受験で上京して、縁あって夫と結婚。2人の子に恵まれ2人とも東京の大学で学んだのを切っ掛けに、私も慶応大学通信課程文学部で学びました。卒業論文は「正宗白鳥―死を超えるもの」で、慶応はテストとレポートが重視されたので、おかげで文章を書く愉しみを知り今日に至っています。

登り山 泰至

はじめ私にとって詩を書くことは自身への内省以外の何者でもありませんでした。

詩の表現を通じて自分を好きになり、また嫌いにくなりました。近年表現の折に触れ、詩は広義の「神性」に通じるものだというところを実感し、同時に詩の未来への橋渡しをという啓発的な気持ちで燃えています。若輩ですがよろしく願います。



関西詩人協会入会のお誘い

会員の皆さん、周りの方々に当会への入会をぜひおすすめください。詩人のほか、詩愛好者や研究者など、会の趣旨に親しみを感じてくださる方なら大歓迎です。幅広い層による豊かな交流が、前からの会員にも良い刺激となるでしょう。関西から、詩を愛する心を大いにひろめていきましょう。皆さんご自身がお友だちの入会推薦人になってくださると幸いです。会事務局または今号会報3ページ下段にある入退会担当まで、ご一報ください。ご協力をよろしく願っています。(文責・佐相憲一)

会員発行の詩誌

あ・う・ん 4	根来真知子
アリゼ 163	以倉紘平
苺通信 30 俳句元年	藤本教博
葦笛 29	阿形蓉子
異郷 30	村上久雄
呼吸 147	司由衣
香川歌人 8月	水野ひかる
G A I A 50	上杉輝子
伽羅 10	吉田定一
コールサック 80	佐相憲一
山陰詩人 200号 (記念特集号)	中尾彰秀
新羅通信 153~155	名古きよえ
知井 18号	松村信人
別冊關學文藝 49	近藤摩耶
銀河詩手帖 266・7	小林尹夫
新療原 12	志賀英夫
柵 5	万年青一
三人囃子 3	三浦千賀子
憧憬 11月	原圭治
軸 112	叢生詩社
叢生 194・5	三浦千賀子
野の花 3	後 恵子
プライム 40	左子真由美
PO 155	武西良和
ぼとり 36	香山雅代
Messier 44	薬師川虹一
RAVINE 192	川田あひる
リフレクション	横田英子
リヴィエール 137	

関西詩人協会HPのお知らせ

http://kpaopem.web.fc2.com/
新役員 の 頁 を 徐 々 に 変 更 し ます

2月から3ヶ月間の「会員の詩」
予定
井上哲士・桂あさみ・和田杏子の三氏
自選詩集第7集より転載
テーマは「川」です
(文責・すみくらまりこ)

関西詩人協会設立20周年記念 第2回バスツアー報告

9月28日(日)

石山寺・ミホミュージアム・信楽焼きの里

心配していた台風が過ぎ、好天の日となった。8時30分梅田大和ハウスビル前で20名の参加者が集合。時間どおりに出発。バスの運行は和泉の国観光のお世話になる。9時30分、京都の竹田駅で集合した12名の参加者と合流。石山寺に向かう。予定より早く10時15分頃に到着。それぞれ自由に石山寺を拝観した。境内の奇岩前で集合写真を撮る。堂内「源氏の間」は紫式部が「源氏物語」を書いたところと伝えられている。境内の小山をひと巡りして、東大門で集合。山門近くの「洗心寮」でシジミ御膳の昼食。12時に出発。

ミホミュージアムに12時45分頃到着。美術館入口まで、電気自動車に乗る人、または徒歩で玄関へ。開催中の『獅子と狛犬―神獣が来たはるかな道―』を楽しむ。静かな山中の桃源郷のような景色を満喫する。

その後、信楽焼き窯元、小川頭三陶房へ行く。陶房へは細い坂道でバスは通れず、足に自信のない方は「陶芸の森」へと別れて見学した。小川頭三陶房では器づくりの行程を、ろくろを回して実演もしていただいた。



団体ではなかなか見学できないが御厚意に甘えて陶房の雰囲気を楽しんだ。静かな窯元の集落を後に、「陶芸の森」へ行ったグループと合流して、信楽焼きのお土産などが買えるお店で休憩。帰路に着く。竹田駅16時30分頃、梅田駅17時30分頃到着。

予定通りの日程だった。会員同士親しくなり、和やかな時をもて、詩とは離れたイベントではあったが、楽しい一日を過ごすことができた。

参加者名 合田照子・井上良子・市原礼子・岩井洋・遠藤カズエ・大倉元・大園千代子・紀ノ国屋千・神田さよ・北口汀子・岸本嘉名男・斉藤明典・斉藤よしみ・佐古祐二・園田恵美子・田島廣子・田村照視・釣部与志・司茜・外村文象・永井ますみ・中西衛・名古きよえ・西風泰子・橋爪さち子・原圭治・前田捷美・ますおかやよい・松原さおり・三島祐一・横田英子 計32名

(上の写真は石山寺) (文責・神田さよ)

PO主催・関西詩人協会後援 詩誌「PO」40周年記念イベント「明日への一歩・詩のヴィジョン」が10月12日大阪天満キャッスルホテルで行われました。荒川洋治氏の90分におよぶ熱のこもった講演「現代の詩・これからの未来」、また関西詩人協会会員の植野高志さん、大倉元さん、北村真さん、高丸もと子さん、橋爪さち子さん、ハラキンさんによる個性溢れるスピーチと見事な詩の朗読、そして、タンゴ・グレリオのお2人による感動的なタンゴの生演奏とたいへん充実した豊かな時間を過ごすことが出来ました。荒川さんは懇親会にも参加していただき、大いに盛り上がりました。多謝。参加者80余名。

(文責・左子真由美)

運営委員会の模様

14年12月13日
午後2時4時50分
エルおおさか 出席18名
①入退会 5名を入会承認し、3名退会で、現会員数295名となる。

- ②名簿作成部数を40部と決める。
- ③会計報告 2か月分につき承認。
- ④会報 67号のゲラを配布して検討。
- ⑤ホームページ 会員の詩を新たにアップする会員3名を決める。
- ⑥運営費用の内規を確認承認。弔意金の額について検討。
- ⑦『言葉の花火』は英訳、見開きの横書きとする。総会で配布できるように準備。応募要項は次回運営委で検討確定予定。発行所は、相見積もりをとる。
- ⑧詩話会 詩画展の時期に詩画展会場の近くで開催することを検討。(具体的な作品を取り上げ、詩の生まれる過程や発想の仕方等を学ぶ場)にする。
- ⑨詩画展 応募要項を次回運営委で検討確定予定。
- ⑩15年の総会は11月15日に決定。会場は未定。
- ⑪会報発送作業は、(銀河・詩のいえ)にて運営委員数名で行う。
- ⑫20周年記念イベント「詩はどこへ 詩誌交流祭」 記念誌の贈呈残務処理につき検討。
- ⑬大阪文化団体連合会の運営委員会担当として紳委員を決定。
- ⑭15年度の運営委員会の日程を決定。

(文責・佐古祐二)

関西詩人協会 会員の活動

有馬 敬氏・京都市芸術文化協会発行の「藝文京129号」に詩「寿命」が掲載された。東京新聞8月28日のコラム「大波小波」にコール・サク社刊の佐相憲一氏との共編『現代の諷刺25人集』が紹介された。11月30日、東京阿佐ヶ谷のイエロ...

青木はるみ氏・元興寺灯籠法要絵奉納。産経新聞連載詩9月「ラマも眠ったかな」10月「悲しい駱駝」11月「罪？誰の？」『詩人会議12月号』全国詩代表作品集掲載。近畿の立場でエッセイも執筆。井上哲士氏・12月、嵐山アートスペースで「コピーアート展」開催。

大西久代氏・文芸思潮58号 現代詩賞において奨励賞を受賞。また岡山県吉備路文学館館長の依頼で作家と詩人のコラボ「平成の詩人展」に出品。梶谷忠大氏・9月、関西バステル画展に出品。

小林尹夫氏・「詩の朗読の夕べ」(世話人・小林尹夫)11月27日、第132回を開催。朗読参加者は17名であった。左子真由美氏・9月19日・26日、高石市立公民館において「シャノン」で楽しむフランス語I・II」を講義。

佐古祐二氏・10月25日(土) 詩の実作講座(於阿倍野ベルタ)において、「愛の詩・III」を講義。佐相憲一氏・北海道新聞にインターネットと詩の論考。しながわてれび生放送出演。詩人会議新人賞選考委員。韓国・台湾の詩人との詩誌創刊に参加。

白川淑氏・9月13日封切りされた映画『舞子はレディ(周防正行監督)』に『花のえま』が映され、ヒロインが「さいごの舞子ちゃん」を朗読された。10月25日守山ステイマールで、佐野晴美氏

により「梅酒」が歌われた。すみくらまりこ氏・11月10日、日本国際詩人協会ワークショップでイタリア詩人二名にインタビュー。11月11日、同一響き合う東西詩人・ポエトリーデーイング(2014)で朗読。

外村文象氏・「COAL SACK」80号にエッセイ「八十歳の日記」今年の夏は大荒れ」詩「孫の日」を掲載。永井ますみ氏、近藤摩耶氏・9月15日鳥取の妻木晩田遺跡で詩とギターのコラボが開催された詩「弥生の昔の物語抄」を朗読した。

名古きよえ氏・10月13日二条家山茶花社「重陽節会」に詩画展2点出す。「京都市芸術文化協会理事長賞」受賞。11月5日京都にて朗読会「夕星(ゆうづつ)」開催。藤谷恵一郎氏・9月27日(土) 詩の実作講座において、「大江健三郎におけるウイリアム・ブレイク」について講義。

薬師川虹一氏・9月日本翻訳家協会より「翻訳文化賞特別特別賞」を受ける。10月リトアニア国際詩祭参加。11月滋賀県文学会で講演「カメラ片手に詩神を求めて。11月日本詩吟文化連盟総会で講演「翻訳詩のリズムについて」12月日本詩人クラブ例会で講演「詩と写真の狭間に立つて」

安森ソノ子氏・10月5日京都国際交流会館にて、京ことばの会十周年記念の公演を開催、出演。11月16日の毎日放送テレビで放映された。吉田薫氏・サンケイ新聞「朝の詩」に「声」が掲載される。

吉田定一氏・10月5日、うたとお話・野口雨情の童謡と民謡/11月30日、朗読劇「詩・童話と解説・宮沢賢治の世界。高石中央公民館ホール。企画とお話(解説)を担当する。ひょうご日本歌曲の会・11月14日兵庫県立芸術文化センターであり、佐藤勝太氏・瑞木よう氏の詩が歌われた。

リヴィエール合同出版会・11月23日会員の永井ますみ、北口汀子、市原礼子、河井洋氏の合同出版会がエルおさかで開催。関

西詩人協会会員の多数の参加を得た。詩を朗読する詩人の会「風」のゲストに9月薬師川虹一さん、10月岩井洋さん。

今後の企画 小林尹夫氏・「詩の朗読の夕べ」(世話人小林尹夫) 毎月第4木曜、午後6時〜熊本市現代美術館。テーマ2月「羊(未)」、3月「春の花」

会員の朗読詩書 近藤八重子詩集『平和な時代の生き様』自家版 佐相憲一エッセイ集『バラードの時間』この世界には詩がある―コールサク社田中信爾写真詩集『音の変幻』竹林館ときめき屋正平詩集『手塩皿上 斑鳩讀』遊絲社

中尾彰秀詩 EARTH POEM PR OJECT(風の起源) 森羅信の会出版山本なおこ童話『学校ドロをつかまえる』(日本図書館協会選定図書に認定) 竹林館 全国生活語詩の会編『現代生活語詩集』(2)昨日・今日・明日 竹林館 風呂井まゆみ詩集 『私は私の麦を守って』 編集工房ノア

会員の異動 永年会員 外村文象氏 退会者 今猿人氏・山口かつ美氏(2名) 入会者 おしだ としこ氏・登り山泰至氏・木村勝美氏(3名) 御逝去 名古屋哲夫氏 293名

団体の会報・図書 詩界通信67号 日本現代詩人会報136号 北海道詩人NO137 北海道詩人協会 北海道詩集 NO61 2014年版

第29回国民文化祭・あきた2014現代詩フェスティバル 現代詩大会 入賞・入

大倉 元 永井ますみ 編集担当者のメールアドレス DZM03624@mifty.com

選作品集・精華集(北東北子どもの詩大賞) 第29回国民文化祭北秋田市実行委 岩手県詩人クラブ会報37号 岩手県詩人クラブ事務局 第67回岩手芸術祭「文芸祭」詩の大会入賞 作品集 岩手県詩人クラブ 栃木県現代詩人会会報第68号 栃木県現代詩人会 10年史 宮城の現代詩・宮城県詩人会 宮城県詩人会 群馬詩人クラブ会報288・9号 宮城県詩人会 群馬詩人クラブ会報 群馬詩人クラブ会報 群馬詩人クラブ会報 群馬詩人クラブ会報

千葉県詩集 第47集 2014 千葉県詩人クラブ 横浜詩人会通信 292号 横浜詩人会 中日詩人会会報 180号 中日詩人会 中日詩人集 54 2014 中日詩人会 静岡県詩人会報123号 静岡県詩人会 福井県詩人懇話会会報87号 福井県詩人懇話会 2014 福井詩祭 福井県詩人懇話会 ANTHOLOGY TOYAMA 2014 富山県詩人協会 別冊「芦屋芸術」 OCOs 203季刊(大阪文化のひろば改名) 大阪文化団体連合会 西宮芸誌「表情」第23号 西宮芸術文化協会 中四国詩集2014 中四国詩人会 2014・年刊詩集 徳島現代詩協会 高知詩集 2014年 高知詩の会通信12号 高知詩の会 とっとり詩集 第六集 鳥取現代詩人協会 大分県詩人協会会報141号 大分県詩人協会会報 福岡県詩人会会報160号 福岡県詩人会 ふたりだけの時間 山下徹 裸心版10月号 こまつかん

群馬詩人クラブ会報 群馬詩人クラブ会報 群馬詩人クラブ会報 群馬詩人クラブ会報

千葉県詩集 第47集 2014 千葉県詩人クラブ 横浜詩人会通信 292号 横浜詩人会 中日詩人会会報 180号 中日詩人会 中日詩人集 54 2014 中日詩人会 静岡県詩人会報123号 静岡県詩人会 福井県詩人懇話会会報87号 福井県詩人懇話会 2014 福井詩祭 福井県詩人懇話会 ANTHOLOGY TOYAMA 2014 富山県詩人協会 別冊「芦屋芸術」 OCOs 203季刊(大阪文化のひろば改名) 大阪文化団体連合会 西宮芸誌「表情」第23号 西宮芸術文化協会 中四国詩集2014 中四国詩人会 2014・年刊詩集 徳島現代詩協会 高知詩集 2014年 高知詩の会通信12号 高知詩の会 とっとり詩集 第六集 鳥取現代詩人協会 大分県詩人協会会報141号 大分県詩人協会会報 福岡県詩人会会報160号 福岡県詩人会 ふたりだけの時間 山下徹 裸心版10月号 こまつかん

群馬詩人クラブ会報 群馬詩人クラブ会報 群馬詩人クラブ会報 群馬詩人クラブ会報

千葉県詩集 第47集 2014 千葉県詩人クラブ 横浜詩人会通信 292号 横浜詩人会 中日詩人会会報 180号 中日詩人会 中日詩人集 54 2014 中日詩人会 静岡県詩人会報123号 静岡県詩人会 福井県詩人懇話会会報87号 福井県詩人懇話会 2014 福井詩祭 福井県詩人懇話会 ANTHOLOGY TOYAMA 2014 富山県詩人協会 別冊「芦屋芸術」 OCOs 203季刊(大阪文化のひろば改名) 大阪文化団体連合会 西宮芸誌「表情」第23号 西宮芸術文化協会 中四国詩集2014 中四国詩人会 2014・年刊詩集 徳島現代詩協会 高知詩集 2014年 高知詩の会通信12号 高知詩の会 とっとり詩集 第六集 鳥取現代詩人協会 大分県詩人協会会報141号 大分県詩人協会会報 福岡県詩人会会報160号 福岡県詩人会 ふたりだけの時間 山下徹 裸心版10月号 こまつかん

群馬詩人クラブ会報 群馬詩人クラブ会報 群馬詩人クラブ会報 群馬詩人クラブ会報

千葉県詩集 第47集 2014 千葉県詩人クラブ 横浜詩人会通信 292号 横浜詩人会 中日詩人会会報 180号 中日詩人会 中日詩人集 54 2014 中日詩人会 静岡県詩人会報123号 静岡県詩人会 福井県詩人懇話会会報87号 福井県詩人懇話会 2014 福井詩祭 福井県詩人懇話会 ANTHOLOGY TOYAMA 2014 富山県詩人協会 別冊「芦屋芸術」 OCOs 203季刊(大阪文化のひろば改名) 大阪文化団体連合会 西宮芸誌「表情」第23号 西宮芸術文化協会 中四国詩集2014 中四国詩人会 2014・年刊詩集 徳島現代詩協会 高知詩集 2014年 高知詩の会通信12号 高知詩の会 とっとり詩集 第六集 鳥取現代詩人協会 大分県詩人協会会報141号 大分県詩人協会会報 福岡県詩人会会報160号 福岡県詩人会 ふたりだけの時間 山下徹 裸心版10月号 こまつかん

関西詩人協会会報

第七十六号

次号原稿の切り二
月末日です

発行者

有馬 敲

編集担当者
のメールアドレス

関西詩人協会事務局

編集

大倉 元

永井ますみ

DZM03624@mifty.com

